

# 瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT

2009 VOL.9

contents

極 研究&教育  
Current topics in research and education

人 時の人  
People in the news

技 最新医療の紹介  
Latest developments on the medical front

和 お知らせ  
Information

## 就任ご挨拶—医学研究科長・医学部長 白井智之

今年もはや5月を迎え、新緑に光があふれています。そんな中で新型インフルエンザのグローバルな流行が危機感を募らせています。4月下旬にメキシコで発生した新型インフルエンザが毎日刻々と世界に各国に広がっていく様子は、まさに地球という世界が小さなものであり、人々の交流が予想を超えて頻繁に、しかも世界中を駆け巡っていることを示しています。鳥インフルエンザの爆発的流行に警戒を募らせている矢先、意外な方向からそれとは異なるインフルエンザが発生し、あつという間に世界中に広がりを見せる様はウイルス感染症の予想を超えた発生と飛沫感染症の怖さを再確認する機会となりました。しかし各国の対応にはお国柄か、結構温度差があることを知ることになりました。比較的若い年代層に感染が広がっていることも特徴で、お年寄りが感染しやすく、健康被害も高いといったこれまでのインフルエンザとは異なっているようです。毎日毎日感染状況が動いている中、国全体の官民をあげての冷静な、しかも着実な対応が国民を守る防波堤であると思います。

私が医学研究科長・医学部長を拝命してひと月たちました。責任の大きさを痛感しています。医学部を取り巻く環境の厳しさは名古屋市立大学だけ

の問題ではないところに根の深さがうかがえます。卒後研修制度の始まりとともに具体化してきた医師不足の全国的現象は一步政策を間違えると修正が困難な局面にあつという間に陥ってしまうことを図らずも示してしまいました。数年前までは医師数は余っているから学生入学定員を削減せよとの大きな力が中央から押し寄せていました。それが一変して入学定員を増加しなさいの方向転換です。しかもその増員率は尋常ではありません。一体全体文部科学省と厚生労働省の施策はだれがどのような考えと責任をもって行っているのでしょうか。あまりにも朝令暮改的な行政の行いは今後の医学・医療に大きな不安材料となっています。今回の新型インフルエンザへの政府あげての対応には一定の成果が上がっていますが、やはり医学・医療に対する中期・長期的な確かな展望と対策がいかに大切であるかを痛感する今日この頃です。こうした諸問題を考えていくほどに公立大学の置かれた立場の不公平感が募ってきます。文部科学省によって保護される国立と私立と違って公立大学はその枠に入っておらず、総務省の管轄であり、設置団体であるそれぞれの地方自治体に委ねられています。例えば入学者定員増に伴う諸費用や設

備の対応についても国からの支援はありません。国の計画に沿って行われる公共事業の地方への一定の費用負担と似た部分があります。独立行政法人化した公立大学は孤立無援のような雰囲気の中で対応していかなければなりません。このような状況のなかで、名古屋市立大学医学研究科・医学部の数多い重要な課題に教職員、学生の皆様のご支援とご協力で一つ一つ対処していき、少しでも「学心・研究心・労働心」を盛りたてていける環境整備のための医学研究科・医学部の改革を進めていきたいと考えております。



研究科長 医学部長  
白井 智之



附属病院前のアプローチの工事が終わり、緑あふれるスペースになりました。

### “瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。



### 連携病院

#### 連携病院—地域医療を担う拠点・中核病院

##### 春日井市民病院—Q:病院の特色は?

春日井市民病院は1951年に自治体病院として開設され、1998年に1,200台の駐車スペースがある140,200㎡の広大な敷地に新築移転しました。将来の再建築の際にも支障のないように考慮された敷地です。尾張北部診療圏に属しますが、地元の春日井市、小牧市だけでなく、名古屋市北部や岐阜県東濃地区の地域住民の医療ニーズにも対応しています。22の診療科を擁し、急性期医療だけでなく慢性期ならびに予防医療にも貢献し、地域完結型医療が可能な基幹施設です。救急医療については、「救急依頼を断らない」姿勢を基本に、県下2番目の救急車搬送実績を誇っています。研修医にとって様々な疾患の診療が経験できる格好の習練の場であると自負しています。消化器内科・呼吸器内科・整形外科・耳鼻咽喉科・放射線科の医師が名古屋市立大学医局から派遣されていますし、多くの卒業生も当院で研修しています。今後も瑞医の関係者との密接な連携をお願いします。



春日井市民病院 院長 渡邊 有三

##### 公立陶生病院—Q:病院の特色は?



公立陶生病院は、瀬戸市を中心に、隣接する尾張旭市と長久手町が協同で開設する組合立病院であります。

今年で創立74周年を迎え、病床数716床、診療科数19科、常勤職員数984人を有するまでに発展しました。住民からの要望の強い救急診療では、救急車搬送台数が年間6,200台を数え、2006年からはドクターカーも導入しています。また、地域がん診療連携拠点病院としてがん診療の充実も進めています。卒後臨床研修にも積極的に取り組んでおり、毎年確実に16名の研修医を受け入れています。多くの研修医が集まってくれるおかげで指導医の教育に対するモチベーションも高く維持され、これが診療科の活力向上にも繋がっています。今後とも名古屋市立大学との連携を一層推進して、良質な医療サービスの提供に努めてまいりますので、ご指導とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

公立陶生病院 院長 酒井 和好

### 教育

#### M3『基礎自主研修』を終えて—4ヶ月に渡るM3メインイベントを学生が報告します—

3月3日ひな祭りに発表会を終え、今年も基礎自主研修が終わりました。基礎自主研修とは、基礎科目を一通り学んだM3が4ヶ月間にわたり21の基礎医学の研究室に分かれ、基礎研究を体験するというものです。例年は教員の方々によって発表会を企画運営していただきましたが、今年から私たち学生の手によって行うことになりました。この発表会の責任者に立候補した私は一緒に企画運営をしてくれる仲間を集い、幸いにして多くの人が協力してくれ、発表会当日を迎えることができました。発表会当日に向けて私たちは新しい企画を提案し実行しました。例年数日に分け行っていた発表を一日で行い、一つの発表を聞く人数を増やしました。また、投票により優秀賞を設け、みんなの発表会に対するモチベーションを高くもってもらえるようにしました。さらに、今年から発表者であるM3だけでなく、来年、基礎自主研修を行うM2の後輩、去年基礎自主研修をされていたM4の先輩にも参加していただき、当日は、こうした方々からもそれぞれの視点からの質問が出て大変有意義なものになったと自負しております。4ヶ月間、自分とは異なることを学んできた同学年の仲間たちの発表は刺激的なものでした。内容自体も興味深いものでしたが、全編英語で発表したり、アニメーションを取り入れて発表をわかりやすいものにしよとしたり、発表会を盛り上げようとする発表ばかりでした。今年が学生主体での初めての発表会と言うことで色々とも問題もありましたが、先生方や事務の方々のご助力、また同級生の協力により無事成功におわることで感謝しております。

M4 井上 裕康



写真:(左上)「研究の面白さがわかりました」と、現在も研究を続ける学生も。(左下):ポスター発表の様子。(右上下)発表会の様子。緊張しましたが、よい経験に。



Miki Asano

**浅野 實樹**(あさのみき) 心臓血管外科 准教授  
専門:心臓外科

心臓外科医としての臨床をなよりの基盤に(1)開心術時における心肺・脊髄虚血再灌流障害での free radicalの影響(2)複雑心奇形の治療戦略の確立(3)小児・異種心移植を研究テーマとし ① radical scavengerによる心筋細胞保護効果 ②肺高血圧患児での肺血管内皮細胞保護の重要性 ③high risk 症例における単心室循環への治療戦略 ④新生児心移植でのgeometric disproportionの影響や異種心移植での臨床応用可能な免疫抑制療法の開発に成果を上げて参りました。今後も日々の診療に常にフィードバックができ、治療のクオリティーをより高める研究を心掛けていく所存です。

近年の論文:Ann Thorac Surg.83(5):1774-80,(2007).,J Pharmacol Exp Ther.322(2):582-90, Epub (2007).,Radiat Med.26:337-342,(2008).



Tatsuo Akechi

**明智 龍男**(あけち たつお) 精神・認知・行動医学 准教授  
こころの医療センター 副センター長、緩和ケア部 部長  
専門:サイコオンコロジー(精神腫瘍学)

私は精神科医なのですが、2004年に名市大の一員として加わらせていただくまでは、国立がんセンターでサイコオンコロジー(精神腫瘍学)という領域の診療、研究、教育に携わっていました。サイコオンコロジーはがんの患者さんやご家族の精神的な問題を取り扱う、まだまだ新しい学問領域です。私自身は、臨床研究を重視する名市大精神科の従来からの特色を生かし、中でもがんの患者さんの精神症状緩和に資するような様々な心理社会的介入法の開発研究に従事しております。これからも、サイコオンコロジーという領域を通して、病に苦しむ患者さん、ご家族のためにお役にたてるよう力を尽くしたいと思っております。

近年の論文:Psychosomatics(in press),Gen Hosp Psychiatry(in press),Psychooncology(in press), Psychooncology 18:23-29(2009),Cochrane Database Syst Rev:CD005537(2008), Jpn J Clin Oncol 38:867-870(2008)



Kenichi Imai

**今井 健一**(いまい けんいち) 細胞分子生物学 助教  
専門:分子生物学(テーマ:HIVの潜伏感染維持と破綻機構の解明)

私が主に研究しているのはエイズです。インフルエンザや肝炎ウイルスの話題に影を潜めている感がありますが、HIV感染者は増え続け全世界で約3300万人のエイズ患者が存在し、年間約210万人が亡くなっています。単一の微生物感染症としてはいまだに最も多くの死亡者をだしています。また我が国は先進国の中で感染者が増え続けている唯一の国でもあります。HIVは自らの遺伝子をヒトの染色体に組み込み潜伏感染する性質を有しているためその治療は困難を極めます。私は細胞分子生物教室(岡本研究室)でHIVの潜伏感染がどのように維持され、また破綻するのかを明らかにするための研究を行っています。特に、ヒストンのアセチル化やメチル化といったエピジェネティックな遺伝子発現制御を介する潜伏感染機構に興味を持って研究を進めています。

近年の論文:J.Immunol.182(6):3688-95(2009),蛋白質・核酸・酵素52(10):1121-27(2007), J.Biol.Chem.281(18):12495-505(2006)



Mineyoshi Aoyama

**青山 峰芳**(あおやま みねよし) 分子神経生物学 助教  
専門:分子神経生物学(グリア細胞)

グリア細胞は脳内に神経細胞より多数存在する細胞です。その主な役割は、神経細胞が秩序をもって活動できる脳内環境の整備です。近年、我々は、このグリア細胞の機能異常がインフルエンザウイルス感染に伴う脳症の悪化に関与することを明らかにしました。そして、現在、このグリア細胞が形成する脳内微小環境を利用して、神経幹細胞および人工多能性幹細胞(iPS細胞)がもっている再生能力を引き出す方法を検討しています。この研究の結果は、難治性脳神経疾患に対する再生医療へ応用できると考えています。実現化までにはいくつか課題はありますが、研究の成果が難治性疾患の治療法の開発に貢献できることを願っています。

近年の論文:Toxicol Appl Pharmacol(in press),Biochem Biophys Res Commun 378:462-6(2009), J Neurochem 106:281-98(2008)

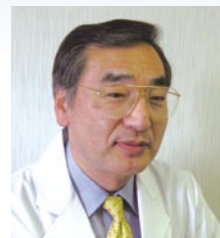


## 新任教授のご紹介

### 消化器外科学—竹山 廣光教授

Q:今後の抱負をお願いします。

平成21年1月1日付で准教授より昇任し消化器外科学分野の教授、第一外科の消化器グループと第二外科の一般外科グループは合併して新たに編成された消化器・一般外科部長を担当させていただくことになりました。外科講座は、第一外科、心臓血管外科、第二外科を合わせた大講座制に変わります。分散されていた力を結集できますので、いざという時には名市大の外科として大きな力を発揮できます。この統合を成功させるためには、同門会の統一が必須であると考えています。外科への逆風が吹くなか、この難局を乗り切るには皆様のご協力は不可欠です。至らぬところが多いとは思いますが、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



竹山 廣光 教授

### 脳神経生理学—飛田 秀樹教授

Q:今後の抱負をお願いします。

平成21年2月に准教授より昇任し、脳神経生理学分野を担当しております。専門は、細胞移植による運動機能の再建、運動・行動制御における脳内ドーパミン神経系、ドーパミン神経分化／栄養因子の解析です。

最近、名市大から発表された論文の被引用度数が日本一であること(大学ランキングより)が報告されました。構成員の一人として大変嬉しく思います。研究者として価値のある良い研究を目指していきたいと考えます。また大学の社会的責任である学部教育・研究者育成にも人一倍力を注ぐことが、大学人の使命と思っております。母校で良い医師、研究者を育てていく機会を与えていただき、大変光栄であると思っております。今後とも皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



飛田 秀樹 教授

## 名誉教授のご紹介

### 津田 洋幸 名誉教授

津田先生は、平成21年春、分子毒性学分野教授を退官されました。これまでに化学物質の発がん性とその強度の評価を中心に研究され、最近では、夢の新素材として注目されるナノマテリアルの二酸化チタンに関して、ラットの皮膚および肺発がんプロモーション作用とその発がん機序を明らかにし、ナノマテリアルの今後の安全管理に重要な情報を発信されています。また、「名市大オープンカレッジ」の運営および、「名市大医療・保健学び直し講座」の開設に主導的役割を果たされ、現在も運営事務局として貢献されています。退官後は特任教授として研究および教育に情熱を注いでおられ、テニスと庭の手入れをする時間がないとぼやいておられます。(文責:分子毒性学准教授 二口 充)



津田 洋幸 先生

### 中島 捷久 名誉教授

先生は、平成21年3月に医学部ウイルス学分野教授を退官され、同年4月より名誉教授に就任されました。就任後も自ら手を動かされて実験をされ、インフルエンザウイルスの研究に従事されています。現在では、研究資金獲得や様々な雑務に気兼ねすることなく、ご自分の興味の赴くままに研究活動を続けられており、その熱心さは学生や若い研究者の模範となっています。また、退官と時を同じくして、世界に新型インフルエンザが流行し、報道陣への対応に追われる毎日となり、対外面でも大きな活躍をされています。(文責:ウイルス学助教 尾曲克己)



中島 捷久 先生

## 法医学—青木 康博教授

Q:今後の抱負をお願いします。

本年4月1日付で法医学分野の担当を拝命し、岩手医科大学より転じて参りました。近年、検視制度・死因究明制度の見直しを見据え、法医学をめぐる環境は大きく変化しつつあります。現状として法医学の分野では様々なリソースが不足していることは否めないのですが、法医解剖を含めた死因究明も「医療」の一環であり、公衆衛生等の向上にとって欠くことのできないものと言えます。教育・研究機関という大学の基盤を踏まえつつ、法医実務の環境整備のために努力していきたいと思っております。また、愛知県は私の郷里でもありますので、大学での活動を通じて少しでも地域に貢献できればと考えております。よろしくご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



青木 康博 教授

## 環境保健学—上島 通浩教授

Q:今後の抱負をお願いします。

平成21年4月1日付で環境保健学分野を担当させていただくことになりました。環境保健学は、生活環境、労働環境、地球生態環境の中にある健康障害の要因やそのリスクの大きさ、解決策を明らかにし、あわせて健康を維持・増進させるための実践を社会の中で行う、衛生学とも呼ばれる学問分野です。私自身は、シンナーをはじめとする有機溶剤、農薬類、室内空気汚染化学物質による健康影響の解明を中心に研究を行っています。化学物質の恩恵を受けない現代社会はありえず、安全とともに安心を確保しつつ化学物質を利用していくことが求められています。精一杯努力していきますので、ご指導ご鞭撻下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。



上島 通浩 教授

## 臨床薬剤学—木村 和哲教授

Q:今後の抱負をお願いします。

平成21年4月1日付で薬学研究科から転任し、新設された臨床薬剤学分野教授ならびに薬剤部長を兼務させて頂くことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。医療現場では事故防止のために、薬剤のリスクマネジメントがさらに重要となり、病院薬剤部の責務はますます重くなっています。その舵取りを任せられ身が引き締まる思いです。研究面ではこれまで男性性機能障害をテーマにNO/c-GMP系の内皮機能障害に取り組んできました。今後は臨床系分野との共同研究や看護学部も交えた臨床研究にも取り組み、様々な視点からこの臨床薬剤学分野を盛り上げていこうと思っております。来年度には薬学部5年生の長期実務実習が始まります。何かとお世話になることが多いと思いますが、私共々ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



木村 和哲 教授

## OB訪問

Q:現在の活動についてお答えください

退職して10余年。この欄に登場するにふさわしくないと考えたのですが…。

小川教授の下、名市大小児科で10余年余り学んだ後、昭和54年4月、愛知県衛生部に職を得ました。

大学にいました時、民間諸団体の方々と共に、県にこども病院を建設してほしいという運動をしており、又、県からのすすめもありその目的を達成することが動機でした。その後、社会的諸事情もあり、雌伏20余年、私の退職(平成9年)後に多くの方々のご努力により、こども病院は平成13年に「あいち小児保健医療総合センター」として大府の地に開院いたしました。そして今日、世界に雄飛する病院となっています。嬉しいことです。現在、愛知県がん研究振興会理事長、愛知医科大学理事、愛知腎臓財団専務理事、長寿科学振興財団理事として、その道の発展を願っています。

昭和39年名市大卒業。昭和40年小児科入局。昭和54年愛知県衛生部。平成9年愛知県衛生部長を最後に退職。



清水 国樹氏

(愛知県がん研究振興会理事長)



### メジャーの重さ(消化器外科治療最前線)

原稿の依頼に訪れた時点で実は締め切りはほぼ過ぎていた。そんな記者の焦りや不安をかき消すように、熱く外科を語り湧き出るアイデアに自らを激しく鼓舞する竹山廣光教授(前列中央)。間に合うかも知れない。どんな困難や逆境の中にあってもベストを追求する姿勢は医療の本質にも通ずる。「今回は消化器外科の食道がん膵臓と大腸がんについて紹介させていただきます。」自信に満ちたメッセージとともに予想を超えるスピードで届いた原稿はそのスケールも型(枠)破りだ。(誌上初の1頁掲載!)そしてそこにあるのは誇り高さ「跡形もない確実な仕事」だった——(取材:尾崎 康彦)

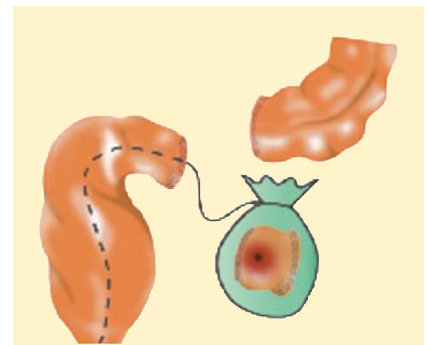


写真:後列左より岡田・仲井・今藤・舟橋・三井・壺田・安田・若杉 前列左より佐藤・桑原・竹山・赤毛・木村(敬称略)まさに黄金のハイブリッドである。

**食道がん:**年間30例以上の症例数は全国でベスト30施設に入り、本年度は50例を超える状況です。食道癌診断・治療ガイドラインに準拠し集学的治療を行なっています。主な対象は進行度分類I期、II期、III期(T3以下)で、II期、III期では術前化学療法を併用しています。手術所見、組織所見により術後に化学療法、放射線療法を追加しています。T4、およびT4疑、IV期では化学放射線療法を第一選択とし治癒切除(R0)手術可能と判断される例は食道切除術を施行します。化学放射線治療後のサルベージ手術も同様の基準です。治療が困難とされる頸胸部境界領域の進行食道癌に対する手術は当科の特徴の一つで、喉頭食道全摘や縦隔気管孔の造設が必要な気管浸潤例の手術も多数手掛けています。縦隔気管瘻の造設は独自の方法を開発しており、胸腔内気管への浸潤例で気管切除後の残存気管長が3cm程度になる症例においても安全に縦隔気管瘻を造設することが可能です。丁寧な手術を心掛けており、副作用や出血量は少なく通常術中輸血は不要です。stage0:100%、I:91.9%、II:61.4%、III:44.6%、IVa:34.7%と5年生存率は全国平均より良好です。

**膵臓がん:**肝胆膵領域の癌、膵臓の手術は現在までに約300例以上、年間約10~20例です。ガイドラインに沿って適切な郭清を行う標準手術(D2手術)を行い、術後早期に食事が開始できる再建法を取り入れています。StageI、IIの膵臓に対しては、亜全胃温存膵頭十二指腸切除を行い、治癒切除成績の5年生存率は約40%に達しています。StageIII、IVの進行癌に対して門脈浸潤例には門脈合併切除を行い、リンパ節、神経の徹底郭清を行っています。術後の再発を予防するためのジェムザールやTS-1を用いた術後補助化学療法や局所放射線療法を積極的に取り入れ優れた予後を得ており、国内外で高く評価され県外からも多くの方が受診されています。研究においては膵臓が高率に神経周囲浸潤をきたす機序の解明、膵臓の周囲浸潤に関与する接着因子の同定、膵臓と周囲組織との相互作用により血管、リンパ管新生に関与する因子の同定などを中心に海外の大学との共同研究も積極的に行っており、現在も米国カリフォルニア州ロサンゼルス大学(UCLA)とテキサス州MDアンダーソンがんセンターに当科の研究員が留学し膵臓の基礎研究を行っており研究成果を世界に発信しております。

**大腸がん:**日本で癌死の原因として胃癌を抜き2番目である大腸癌の手術は、今大きな変貌を遂げつつあります。1991年腹腔鏡下大腸切除術症例が報告され、手術器械の開発や手技の向上に伴い現在広く普及しはじめています。最近では、切除腸管を取り出すための5cm程の創で済むようになり早期の回復・退院が可能となりました(当院では術後約1週間入院)。当科では、1997年からこの手技を導入しており年々増加傾向です。また、当初は良性疾患や早期の大腸癌が適応だったこの手術をまだ一般的ではない進行癌や直腸癌の患者さんに適応拡大し、更なる低侵襲手術を推し進めております。極めて肛門に近い直腸癌に対する腹腔鏡下超低位直腸前方切除術や切除腸管の肛門からの抜去による切除腸管を取り出す小切開もない手術(hybrid NOTES: Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery,右図)です。当然ながらこれらの手術は数多くの開腹手術における確実な郭清経験や、また数多くの腹腔鏡下胆嚢摘出術といった基本的な腹腔鏡手技の経験に裏打ちされ初めて可能な手術で、現在世界中の腹腔鏡外科医の中で最もホットな話題である創一つの手術(SPS:Single Port Surgery)や究極の創の無い手術(NOTES)への過程であり、その実現に向け日々精進しています。



NOTES:経管腔的内視鏡手術口、肛門、膈などの人体に備わった自然孔から内視鏡を挿入し、管腔壁に小切開を加え、体腔内に到達して診断・処置を行うという、常識破りの概念

### 地域貢献・地域活動

#### 健康科学講座 オープンカレッジ開催中!Labo見学も行いました! (2009年第1期-「子育て世代の脳知識」)

2005年に始まり恒例となったオープンカレッジ。2009年度は第1期～第3期にわけ3つのテーマを用意。すでに第1期の「子育て世代の脳知識」が、6月5日(金)から7月末まで全8回にわたり開催中です。(詳細は、オープンカレッジHP:[www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/opencollege.html](http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/opencollege.html)をご覧ください。)

脳はどのように作られるの?どのように働いているの?どんな方法で研究するの?子供に多い脳の病気は?子供のこころの発育は?学習のしくみは?について、子育て現役世代・教育関係者の方を中心に86名が勉強中です。中でも研究室見学はこれまでにない試み!電子顕微鏡、免疫染色法、行動実験、リアルタイムPCR法、イメージング法、DNAシーケンス法、イオンチャンネル解析法、細胞移動、の実験手法を見学します。

次世代の育成に携わる子育て世代・教育関係者の方たちが、正しく脳の働きや病気を理解し、そして教育へ繋げる努力をしていただきたい!これがコーディネーターの願いです。

コーディネーター脳神経生理学 教授 飛田 秀樹

#### 6月26日に研究室を見学した 受講生の感想



実際に顕微鏡で立体視を体験した時は、感動しました。研究者の方は、毎日顕微鏡で細胞を探し見つけての繰り返しを行っていると考えると大きな発見も毎日の苦勞が蓄積された結果だと実感。(女性)

研究室を見学できるのは非常に“まれ”なことなので興味を持って見学できました。(男性)



#### 卒業式&入学式を行いました。



3月-83名の卒業生が名市大を巣立っていきました。研修医として多忙な毎日を送られていると思いますが、地域に、世界に活躍の場を広げ立派な医師、研究者となられることを教職員一同、祈念しています。

4月-92名の新生入生を迎えました。医師不足に対応する国の政策のもと入学定員が80名から増員となった今年度。医師に求められるものは、社会の移り変わりとともに変化しますが、この日の喜びや医師を志した初心を忘れず、本学で有意義な6年間を送ってほしいです。

また、入学式後に行われた「新生入生保護者説明会」には、104名の参加をいただきました。研修室、病院ヘリポート、図書館の施設見学の後、カリキュラムや学生生活についての説明を行いました。参加者からは「見学することにより、子供の学生生活のイメージがよくなりました。」「先生方をはじめ、施設関係者の皆様の熱意が感じられ有意義な時間でした。」等の感想をいただきました。ご入学、おめでとうございます。



左上:センチュリーホールで行われた卒業式の様子。左下:4月10日、新生入生歓迎会。300名余りの先輩、教員に囲まれて。アットホームな名市大医学部です。右上:4月6日、保護者説明会。図書館、病院屋上ヘリポートを見学。

#### 桜山の懐かしのお店紹介-第4回「三嶋屋本店」さん

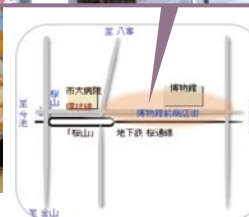
「三嶋屋に行こう」と声がかかり、軽く昼食を済ませていた僕はわずかに迷った。しかし、しばらくぶりのきしめんを思うと、この機を逃す理由は思い当たらない。快調するのに時間はかからなかった。

地元根付いた老舗の風情たっぷりな店内。店は昼時となれば大いに賑わい、外に列ができるほどだ。しかし回転が速いためか、さほど待つことなくテーブルに着くことができた。だしの利いたころきしめんは口当たりが良い。決して空腹ではなかったにも関わらず、本当にあっという間に平らげてしまった。定食にはトンカツも付いており、ボリュームがある。しかしふと気がつくとお腹が膨れるのも忘れて夢中で口に運んでいた。

思えば川澄で学ぶようになって初めて先輩にごちそうになった店は三嶋屋だった。川澄デビューを飾る店、気軽に立ち寄れる店としていつまでもそこにあり続けてほしい。  
(紹介:M5学生)



ボリュームたっぷり。春から名古屋に住み始めたというアナタ!名古屋飯をぜひ味わって「川澄デビュー」を!



「桜山駅」4番出口南20m。博物館の手前です。



### 喜谷記念トラストがん治療プロジェクトの発足

名古屋市立大学病院に「喜谷記念トラストがん治療プロジェクト」が発足します。



喜谷喜徳名誉教授と共同研究者  
右端:喜谷名誉教授、隣は匡子夫人

市大病院では、2008年2月の「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、これを基盤に「精神腫瘍学」「肝疾患診療連携拠点」「がんプロフェッショナル養成プラン」など数々の重要なプロジェクトが始まりつつあります。こうした中で、白金錯体抗がん剤であるオキサリプラチン開発の知的財産をもとにした「喜谷記念トラスト」からの資金的支援を得、あらたにがん化学療法の推進のための総合的診療研究プログラムがスタートすることになりました。

オキサリプラチンは、1975年、名古屋市立大学薬学部薬品分析化学教授であった喜谷喜徳名誉教授の研究室で開発された、いわゆる第三世代の制癌性白金錯体です。国内での開発が進まず、ヨーロッパに開発の舞台が移った後も紆余曲折を経ていくつかの製薬企業が諦めた後、最終的にスイスの臨床開発企業 Debiopharmaが開発に成功しました。フランスで1996に最初に認可され、その後EUや米国を経て、我が国では2005年に「逆輸入」のかたちで世にでました。この間、Debiopharma社が開発の経緯を楯に喜谷名誉教授側(喜谷記念トラスト)への特許料の支払いを拒む訴訟を起こすなどの波乱がありましたが、2008年に喜谷トラスト側が勝訴して、基金としての活動が可能となりました。

昨年夏、喜谷記念トラストから名古屋市大病院のがん治療プロジェクトへの支援の申し出がありました。両者で検討を重ねた結果、1)がん化学療法センターの設置による助教2名の配置と白金製剤治療の研究、医師・医療スタッフの海外研修の援助、2)がん緩和ケアセンターの設置による専任教員の配置(講師1助教2)と精神腫瘍学を中心とした緩和ケアの推進と教育研修、3)がん治療情報センターの発足による総合的公共的がん治療情報のデータベース化、という事業計画をたて、2009年度から3年間、年間一億円の経費でプロジェクトを実施することになりました。

これは名古屋市大での医学薬学研究成果が知的財産として大規模に還元される最初の例となり、是非成功させばなりません。

文責:生物化学 横山 信治教授

### 「名市大医フォーラム2009」(2月21~22日)報告



一教員と学生が「名市大をよりよくするために」、カリキュラム、初期研修、学生生活等の様々な角度から本音で話し合いました。参加した学生からの報告です。

#### 名市大医フォーラム2009を終えて

2009年初頭、以下のような話を、学生側から先生方から提案させていただきましました。金山駅近くのホテルを1泊予約し、学生と教員総勢約60名で夜通し(?)語り合う“合宿”をしたい、と。夜にはもちろんお酒も少々入ります。上記は多少の誇張表現を含みますが、やりたかったことはまさに“ざっくばらんな話し合い”です。先生方と現M4~6の学生が、その垣根を越えて、“名市大をさらに良くするためには”という観点で意見をぶつけ合いました。討論された内容は、名市大病院の研修システムや、学生生活向上といった事柄です。導き出された結論をここに記すにはスペースが少なすぎますが、第一に私ども学生が感じたことは、先生方の熱意と、学生に対する愛情でした。名市大という“家族”の中で、学生である私たちは、実に恵まれた環境で勉強させていただいている、ということを確認することができました。この合宿を一つのきっかけとして、名市大の将来がますます輝くものになれば、と思います。お世話になりました先生方、先輩方、本当にありがとうございました。

文責:医学部5年生 小笠原 治



各テーマに分かれ討論、その結果を発表し、共有しました。



### 平成20年度ご寄附をいただいた方々

「市立大学振興基金(医学振興)」に、ご理解・ご賛同を賜り、誠にありがとうございます。平成20年度も多数の方々からご寄附をいただきました。お寄せいただいた寄附金は、教育・研究の推進に活用させていただきます。(順不同・敬称略)

加納 史朗	石神 博昭	中村 晴重	鈴木 光俊	山内 翔	宮口 英樹
坂井田 勉	原田 省吾	小崎 康成	中村 雅樹	藤田 正弘	打田 昌夫
藤原 克己	百瀬 洋一	小島 邦義	富田 真樹	柴田 美紀	丹羽 則之
山河 勝彦	安田 英生	寺田 順二	桑山 正美	伊藤 俊彦	福元 廣次
荒谷 英幸	重政 吉男	細川 俊通	志水 昌吾	酒井 久男	松岡 賢也
白神 哲夫	増富 将	三好 新一郎	長谷川 俊道	宇佐美 良児	小林 格

広報誌：瑞 医(ずい)

発行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部  
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1  
TEL(052)853-8077 FAX(052)842-0863

**URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp>**

※次号の発行は平成21年10月下旬発行予定です。[年3回 2月・6月・10月]

☒  
我こそは  
通信員!

広報誌「瑞 医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、[igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp](mailto:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp) または医学部事務室 広報担当まで